

# 医療課題検討部会

## 報告書

### ① メンバー構成

部会長 角谷 岳朗 (角谷クリニック)	一般社団法人 吹田市医師会
千原 耕治	一般社団法人 吹田市歯科医師会
門田 繁雄	大阪府吹田保健所
青木 宏之	大阪府立吹田支援学校
戸川 啓史 (医師)	大阪府済生会吹田病院
尾上 淳子 (看護師)	
川口 真理子 (ソーシャルワーカー)	
岩間 紀子 (ソーシャルワーカー)	大阪府済生会千里病院
斎藤 健二 (ソーシャルワーカー)	地方独立行政法人 市立吹田市民病院
友國 領子 (精神保健福祉士)	国立大学法人大阪大学医学部附属病院
伊藤 成康 (さつき福祉会)	あおぞら (ホーム事務局)
信田 涼 (以和貴)	北千里以和貴
足立 雅美 (ぷくぷく福祉会)	ねばーらんど
富士野 香織 ((有) コスモス)	吹田市障がい者等居宅介護等事業所連絡会
中山 恭子 (のぞみ福祉会)	自立支援協議会居住支援部会

### ② 会議頻度

年4回

### ③ 地域課題

意思疎通に支援を必要とする障がいのある方が入院して適切な医療を受けるためには、「家族もしくは関わりのある支援者による常時の付き添い」が必要という実態が多くあります。

そのため、付き添える家族がない場合は入院をあきらめるか、制度外の有償サービスをつかう・個室の利用といった費用面への負担が大きくなってきます。

家族がいても付き添いによる負担は心身ともに大きいため、早めの退院や場合によっては入院をあきらめざるをえない状況です。また支援者による付き添いは、無償で時間を割かなければいけないのが現状です。

医療行為を行う際に必要なマンパワーは公的医療保険でまかなわれていることにはなっていますが、現実には上に述べたような困難が存在しています。これらの問題はかなりの部分が障がい特性による医療従事者との間に適切なコミュニケーションが取りにくいことに起因しております。

そのため、意思疎通が困難な障がいのある方でも入院がスムーズに行えるように普段から関わりのある支援者が病院スタッフに対して、コミュニケーションの取り方の技術を伝える期間を設けることが必要です。関わりのある支援員を病院に派遣し、病院スタッフにコミュニケーションの技術を伝えることにより、障がいのある方も安心して医療を受けられる環境の確保。付き添いによる家族への負担軽減および事業所のボランティア等でまかなっていた部分を制度化により支援していくことを目的としております。

#### ④ 課題解決に向けての取り組み

入院時における課題についてのニーズの把握、実際にはどの程度の支援が必要だったのかを知り、まだ明らかになっていない課題を洗い出すために、障害福祉サービスを利用している方またその家族、事業所を対象にアンケートを行いました。

集計したアンケート結果からは障がいを持つ方が適切な医療を受けるためには、医療、福祉のどちらか一方だけが努力すれば解決できる課題は少なく有機的な連携が必要であることを部会内にて確認いたしました。

また入院時にどのような困難さがあつたのかを実際にあつた過去の事例を通し、今後に向けてどのような工夫が出来るかの洗い出しをおこないました。

その中で、

○医療サイドも日頃から、かかわりのある支援者が院内において付き添ってほしい必要性を感じている。

○入院時に対して、病院側もその入院患者に対する関わり方やつぼ等を教えてくれる情報提供者がいると受け入れと対応の幅が広がる。

○障がいを持つ方の中には、環境の変化の対応に難しい方もおり、そういった方に安心して治療を受けてもらう為には初期対応の付き添いと引き継ぎ期間を設ける必要性がある。

以上のことが意見交換をふまえる中で確認され、入院時コミュニケーションの事業化に向けて、その対象者と支給期間等の制度内容の作成に取り組みました。

事業化に向けての取り組みとして、提言書を部会から今年の1月の運営員会および2月の全体会にて提出。自立支援協議会会長名で市に提言をあげてもらっております。

また本人がスムーズに医療機関で適切な医療を受けられるための手段の一つとして、吹田市共通の「情報提供カード」の必要性があげられました。医療側としては本人と関わる上

で実践的な情報を求めており、「吹田市域ケアネット実務者懇話会 共通書式 Ver.1.0」もとに障がい特性や関わる上で配慮のいる部分等を付け加えた様式（案）を作成いたしました。今後の動きといたしましては、事業のPR・周知を兼ねて、サービス種別ごとの様々な事業所に記入してもらうように依頼し、記入していただいたうえで意見を集約して、様式（案）をさらにねっていく予定です。

#### ⑤その他の活動状況

模擬診察の取り組みや子どもの頃からかかりつけ医を持つための意識作りも大切と考え、就学時に出来る工夫はないかと、吹田支援学校とワーキングメンバーにて受診慣れのためにどういった取り組みをおこなっているかの聞き取りを行いました。

支援学校では校医による定期的な検診と、またスムーズに検診が受けられるように様々な取り組みが行われており、むしろ地域の支援学級における、特別な取り組みがおこなわれていない可能性が出てまいりました。そのため今後は地域の学校への聞き取りをおこなう予定です。さらに学校のみでなく、障がいをもつ親やPTA等、今の子どもたちの現況を聞ける人たちからの聞き取りもおこなっていく予定です。